

■ 会社概要 (2022年11月18日現在)

商号 株式会社岡三証券グループ
(OKASAN SECURITIES GROUP INC.)
所在地 東京都中央区日本橋一丁目17番6号
創業 1923年4月4日
設立 1944年8月25日
資本金 18,589,682,639円
従業員数 3,675名 (第85期第2四半期連結ベース)
上場金融商品取引所 東京・名古屋証券取引所



本社

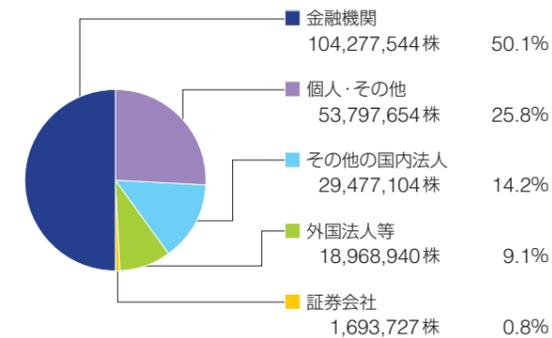
室町本社

■ 株式の状況 (2022年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 750,000,000株
発行済株式の総数 208,214,969株(※1)
株主数 32,330名

所有者別持株比率



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%) (※2)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	19,307	9.36
日本生命保険相互会社	9,732	4.72
農林中央金庫	9,700	4.70
三井住友信託銀行株式会社	8,726	4.23
大同生命保険株式会社	8,660	4.20
三菱UFJ信託銀行株式会社	5,822	2.82
有限会社藤精	5,266	2.55
三東株式会社	5,128	2.49
株式会社りそな銀行	4,937	2.39
株式会社みずほ銀行	4,925	2.39

(※1)2022年10月14日を効力発生日とする株式交換に際して23,002,104株の新株を発行しており、発行済株式の総数は231,217,073株となりました。
(※2)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を控除した数に基づき算出しております。

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月中に開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数 100株
公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載) <https://www.okasan.jp>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031 (9:00~17:00/土・日・休日を除く)
(URL) <https://www.smb.jp/personal/procedure/agency/>

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

証券会社の口座をご利用の株主さまは、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、株主さまの口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社の口座をご利用されていない(特別口座に株式のある)株主さまは、左記電話照会先までご連絡ください。

配当金のお受取り方法について

配当金のお受取り方法につきましては、便利なご指定口座への口座振込による方法のほか、証券会社のお取引口座において株式数に応じてお受取りいただく方法、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口でお受取りいただく方法がご利用いただけます。
お手続きにつきましては、株主さまの口座のある証券会社または三井住友信託銀行(特別口座に株式のある株主さま)へお問い合わせください。

株主のみなさまへ

第85期中間のご報告 (2022年4月1日~2022年9月30日)

株式会社 岡三証券グループ

■ ごあいさつ

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第85期中間のご報告をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当上半期は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和など社会経済活動の正常化に向けた動きが進んだ一方で、ウクライナ情勢等を背景とした世界的な物価上昇や、金融政策等に起因する記録的な円安など、経済、金融環境の不確実性をあらためて意識する動きとなりました。

このような中、当社では中期経営計画最終年度となる今年度においても、長期的観点から改革を加速させております。中核子会社である岡三証券株式会社においては、中期経営計画スタート時から推進しているCX(お客さま体験価値)向上に引き続き取り組んでいます。また当上半期においては、グループの枠を超えた成長戦略を推進する「自前主義からの脱却」の一環として、SBIグループとの間で岡三アセットマネジメント株式会社の合併会社化について正式合意し、資産運用ビジネスの一層の基盤拡大を図ることといたしました。一方、効率的かつ機動的なグループ運営を行うことを目的に、子会社6社の完全子会社化についても推進いたしました。

お客さまや株主さまのご支援のもと歩んだ1世紀を経て、2023年4月に当社は創業100周年を迎えます。次の100年においても、金融のプロフェッショナルとして資産運用における付加価値をお客さまにお届けするとともに、お客さま一人ひとりの人生に貢献できる企業であることを目指し、改革を推進し、引き続き企業価値の向上に取り組んでまいります。

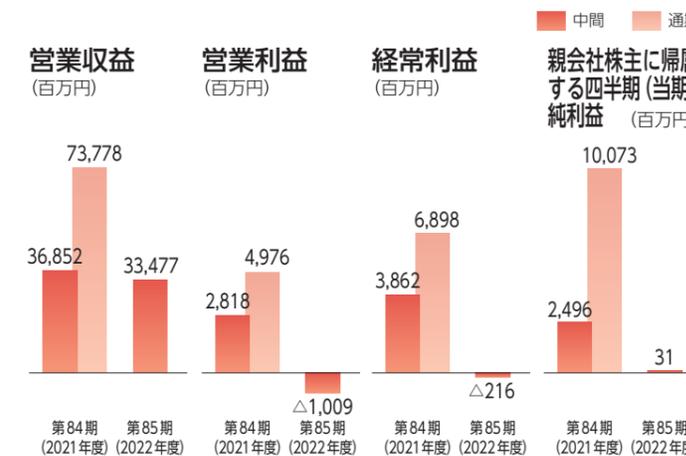
株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年11月

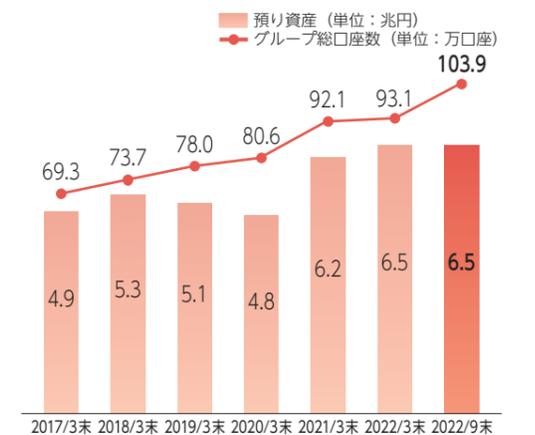


取締役社長 新芝宏之

■ 業績ハイライト (連結)



■ グループ預り資産および口座数の推移



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

科 目	(単位：百万円)		科 目	(単位：百万円)	
	前年度第2四半期 (2021年9月30日)	当年度第2四半期 (2022年9月30日)		前年度第2四半期 (2021年9月30日)	当年度第2四半期 (2022年9月30日)
<資産の部>			<負債の部>		
流動資産	511,041	638,199	流動負債	380,908	501,400
現金・預金	78,861	81,951	トレーディング商品	93,555	162,473
預託金	107,182	101,559	信用取引負債	24,702	20,691
トレーディング商品	127,981	173,006	有価証券担保借入金	33,647	63,279
約定見返勘定	1,950	16,118	預り金	87,983	81,007
信用取引資産	73,647	76,918	受入保証金	38,711	43,056
有価証券担保貸付金	101,290	157,805	短期借入金	94,022	124,033
その他の流動資産	20,129	30,840	その他の流動負債	8,285	6,857
固定資産	97,608	78,253	固定負債	34,050	28,741
有形固定資産	18,229	17,845	特別法上の準備金	1,236	1,241
無形固定資産	4,222	4,667	負債合計	416,195	531,382
投資その他の資産	75,156	55,740	<純資産の部>		
資産合計	608,650	716,453	株主資本	152,112	160,191
			資本金	18,589	18,589
			資本剰余金	23,848	25,365
			利益剰余金	113,407	117,963
			自己株式	△ 3,733	△ 1,726
			その他の包括利益累計額	17,310	7,026
			新株予約権	463	421
			非支配株主持分	22,568	17,431
			純資産合計	192,455	185,070
			負債・純資産合計	608,650	716,453

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

科 目	(単位：百万円)	
	前年度第2四半期累計 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当年度第2四半期累計 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業収益	36,852	33,477
① 受入手数料	23,106	21,905
② トレーディング損益	12,152	10,015
金融収益	1,095	1,082
その他の営業収益	497	474
金融費用	581	720
純営業収益	36,271	32,756
③ 販売費・一般管理費	33,452	33,765
営業利益	2,818	△ 1,009
営業外収益	1,115	895
営業外費用	71	103
経常利益	3,862	△ 216
特別利益	384	275
特別損失	70	77
税金等調整前四半期純利益	4,176	△ 18
法人税、住民税及び事業税	1,068	89
法人税等調整額	374	△ 201
法人税等合計	1,442	△ 111
四半期純利益	2,734	93
非支配株主に帰属する四半期純利益	237	61
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,496	31

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

当第2四半期連結累計期間における営業収益は、前年同期比9.2%減の334億77百万円となりました。

①受入手数料

投資信託関連収益が増加した一方、国内外株式の委託手数料の減少により、受入手数料は前年同期比5.2%減の219億5百万円となりました。

②トレーディング損益

外国債券に係るトレーディング損益が増加した一方、米国株式を中心とする外国株式に係るトレーディング損益の減少により、トレーディング損益は前年同期比17.6%減の100億15百万円となりました。

③販売費・一般管理費

主に事務費や人件費の増加等により、販売費・一般管理費は前年同期比0.9%増の337億65百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における経常損失は2億16百万円（前年同期は38億62百万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比98.7%減の31百万円となりました。

創業 100 周年に向けて

2023年4月4日に当社は創業100周年を迎えます。次の100年も、お客さまの人生に貢献できる企業であることを目指してまいります。

中期経営計画目標達成への取り組み

中期経営計画の最終年度において、3つの基本方針に沿って企業価値の向上に努めております。

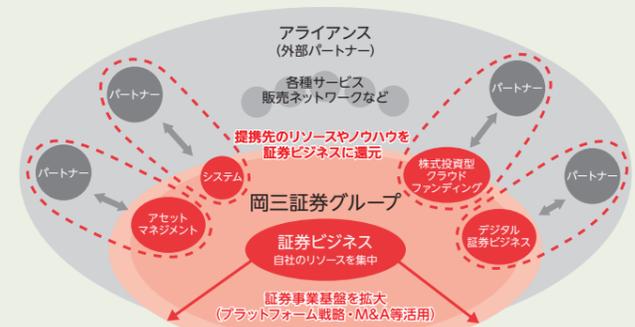
本年7月には丸三証券からのインターネット取引口座「マルサントレード」事業譲り受けが完了し、定量目標に掲げる100万口座達成が見込まれるようになりました。預り資産や口座当たり残高の増加についての取り組みを継続し、さらなる基盤拡大を目指しております。

100周年という大きな節目をゴールではなくスタートラインととらえ、引き続き企業価値の向上に努めてまいります。

「自前主義からの脱却」によるグループ成長戦略の加速

機動的かつ拡張性の高い成長戦略を推進するため、自社で総合証券としてのあらゆるファンクションを取り揃える「自前主義」からの脱却を進めております。新たに参入予定のデジタル証券ビジネスについては準備会社を設立したうえでパートナー企業3社とともに合併会社化いたしました。

またこのたび、グループの枠を超えて資産運用ビジネスの成長を図るため、子会社の岡三アセットマネジメントをSBIグループとの間で合併会社化することに合意いたしました。変化の激しい環境の中で、グループの枠にとらわれることなく拡大成長を目指してまいります。



OKASAN TOPICS

岡 三 ト ピ ッ ク ス

岡三証券 新社長就任

本年6月、中核子会社の岡三証券において、池田嘉宏が取締役社長として就任いたしました。

新たな経営体制のもと、創業100周年に向けた様々な施策を推進中です。これからも一人ひとりのお客さまに最適なサービスを提供し続けてまいります。

店舗リニューアル・サテライト拠点拡充

岡三証券では、本年8月に藤井寺支店の移転リニューアルを実施いたしました。店内には個別ブースを設置、お客さま一人ひとりに寄り添った資産運用のご相談を承っております。

一方、10月には首都圏において新たに成増サテライトプレイス(東京都板橋区)を開店いたしました。

今後も、各店舗の充実やお客さまに近いエリアへのサテライト拠点出店を通じ、より一層のサービス向上に努めてまいります。



藤井寺支店 新店舗

サステナビリティ

事業活動を通じた社会貢献

岡三証券では、国際協力機構(JICA)が日本で初めて発行した「ピースビルディングボンド」(平和な社会の実現に資金使途を限定した「平和構築債」)の共同主幹事を務めました。また、販売する「グローバル全生物ゲノム株式ファンド」から得られる信託報酬の一部について、希少疾患支援団体への寄附を行いました。

他のグループ各社においても、岡三にいがた証券では、販売する地域応援ファンド「うるおいの大地」から得られる収益の一部について、新潟県内の農業関連施設への寄附を、岡三アセットマネジメントでは、運用する地域応援ファンド「香川県応援ファンド」の信託報酬の一部について、県内施設への福祉活動用車両の寄附をそれぞれ実施いたしました。

岡三証券グループ各社では、今後も事業活動を通じた地域貢献や社会の発展に努めてまいります。



寄附贈呈式の様子(うるおいの大地)